

3. 評価・検証

今回の評価・検証は、景観計画に示す実践施策の推進状況調査と、市民の意見調査の2点から行うこととする。

実践施策の推進状況調査については、景観計画に示す19項目の実践施策を4つのグループに分類し、共通に見られる課題を整理、今後の取り組みを示した。

市民の意識調査については、毎年行っている市民意識調査や他の施策で行った市民意見の聴取の結果から、景観に関する項目を抽出し、検証を行った。

(1). 実践施策の推進状況調査

ア. 調査項目

- ・ 19項目の実践施策について、以下の4つのグループに分類した。

【市民が主役の景観まちづくり】

1. 景観づくり市民活動の支援
2. 生活風景宣言の登録
3. 地域景観資源の登録
(景観重要建造物・景観重要樹木)
4. 市民提案による地域のルールづくり
12. 景観地区等のルールの活用
14. 町田市住みよい街づくり条例の充実

【行政が先導する景観まちづくり】

3. 地域景観資源の登録
(景観重要公共施設)
9. 公共事業による景観形成
10. 他の施策・事業と連携した総合的な景観づくりの推進
13. 町田市景観審議会の設置・運用

【事業者との協働による景観まちづくり】

5. 届出制度による景観づくり
6. ガイドラインに基づいた景観づくり
8. 事業者提案によるルールづくり
11. 景観協議会の活用
19. 景観整備機構の活用

【景観まちづくりの周知啓発活動】

7. 景観社会実験の実施
15. 街づくりフォーラムの充実
16. 町田市公式ホームページの充実
17. 景観づくりセミナーやワークショップ等の実施
18. 景観賞の創設

イ. 調査様式

- ・ 下記の調査様式に調査結果を記す。(2021年度グループ毎検証用(様式1))

2021年度グループ毎検証用(様式1)	
調査事項	市民が主役の景観づくり
	実践施策
	No.1 景観づくり市民活動の支援
	No.2 生活風景宣言の登録
	No.3 地域景観資源の登録 (景観重要建造物・景観重要樹木)
	No.4 市民提案による地域のルールづくり
	No.12 景観地区等のルールの活用
	No.14 町田市住みよい街づくり条例の充実
	実施内容
	成果
	課題
	今後に向けて

市民が主役の景観まちづくり	
実践施策	
No.1 景観づくり市民活動の支援	No.4 市民提案による地域のルールづくり
No.2 生活風景宣言の登録	No.12 景観地区等のルールの活用
No.3 地域景観資源の登録 (景観重要建造物・景観重要樹木)	No.14 町田市住みよい街づくり条例の充実
実施内容	
<p>No. 1 景観づくり市民活動の支援 ……詳細P.22</p> <p>[景観づくり市民サポーター制度]</p> <p>○2014～2016年度……景観づくり市民サポーター活動を認定。(第2期)</p> <p>活動人数30名(男性26名、女性4名)</p> <p>・学びグループ、探すグループ、考えるグループの3グループに分かれ、多方面から町田の景観について調査研究を行い、活動成果として冊子を作成した。</p> <div data-bbox="550 1061 1102 1473" data-label="Image"> </div> <p>[その他の活動]</p> <p>○2019年度……藤の台団地「団地再生会議」に参加(計6回)</p> <p>No. 14 町田市住みよい街づくり条例の充実 ……詳細P.39</p> <p>・現行条例の考え方を引き継ぎつつも、市民の活動の多様化に合わせて、条例が対象とする「街づくり」範囲を見直し、より広範なまちづくり活動に支援を行える仕組みとするため、2021年12月に条例を改正した。</p> <p>No. 2 No. 3 No. 4 No. 12の実践施策について、活用の実績なし。</p>	

調査事項

調査事項	主な成果
	<p>景観づくり市民サポーター制度を活用した市民活動について支援を行うことができた。活動の成果として、2017年3月に「学ぼう！探そう！町田の景観」、2019年3月に「町田をくりぬく！！」を発行した冊子は、普及啓発に役立っている。現在、市民サポーター制度は終了したが、新たな市民協働による景観づくり活動として、「みちあそび」を開催し、その後市民の基で継続されている。</p>
	課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観づくりの市民活動の実態は、主な成果にもあるような、まち歩き等の成果を冊子にまとめて発行する活動、団地内の道路空間を活用したみちあそびの活動の他、地域の空き家空き地、広場等を活用して地域の交流の場を創出する活動、地域内の清掃や植栽の維持管理の活動等多様化しており、景観条例に定める既存の制度だけでなく、活動にあった制度や支援が必要になっている。 ・ 「生活風景宣言」は、地域住民が取り組む、清掃活動や、花壇・生垣を維持する取り組み等を推進することを目的に定めているが、これまでに制度活用の相談事例がない。 ・ 「地域景観資源」は、景観法に定める景観重要樹木や、景観重要建造物、景観重要公共施設の指定につなげるために設けている制度で、活用の相談があったものの、提案者が維持管理を行うこと等の負担が大きく、提案に至らなかった。
	今後に向けて
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民活動の実情を見ると、まちづくりと景観づくりの活動は重なり合う部分が多く、明確に切り離すことは難しい。「町田市景観計画」や「町田市景観条例」で支援できることと、「町田市住みよい街づくり条例」で支援できることを整理した上で、適切な支援ができるよう検討する。 ・ 「生活風景宣言」については、活用実績がなかったことを踏まえ、原因を探り、対応策を講じる必要がある。制度の周知や、制度の活用に至るまでの支援の必要性、制度自体の見直しの必要性等を検討する。 ・ 「地域景観資源」については、制度の簡略化や、制度の活用に至るまでに必要な支援策を検討する。

事業者との協働による景観まちづくり

実践施策

- No. 5 届出制度による景観づくり No. 11 景観協議会の活用
 No. 6 ガイドラインに基づいた景観づくり No. 19 景観整備機構の活用
 No. 8 事業者提案によるルールづくり

実施内容

No. 5 届出制度による景観づくり ……詳細P.27

○各景観形成ゾーン、景観形成誘導地区に景観形成基準を定め、一定規模以上の建築行為や開発行為等について届出を義務付け、景観誘導を図っている。

	2016	2017	2018	2019	2020	合計
当初届出提出件数	112	94	104	102	73	485
変更届出提出件数	18	15	18	17	13	81
公共通知提出件数	10	17	11	9	13	60
合計	140	126	133	128	99	626

No. 6 ガイドラインに基づいた景観づくり ……詳細P.28

○町田市屋外広告物ガイドライン(景観編)(2018年策定)

・町田市が目指す屋外広告物景観の方向性を示し、事前相談を規定している。

	2018年度	2019年度	2020年度
東京都屋外広告物条例に基づく許可申請数	718件	590件	675件
ガイドライン景観事前相談件数	39件	53件	28件
事前相談によって対応あり	12件	13件	9件
事前相談によって対応無し	27件	40件	19件

No. 8 No. 11 No. 19の実践施策について、活用の実績なし。

調査事項	主な成果
	<p>屋外広告物景観事前相談について、計画段階に配慮事項を伝える機会を設けることで、地域の景観特性に合わせた色彩や大きさなどの配慮に応じていただいた。</p> <p>景観法に基づく届け出については、建築物等の色彩基準などの定量的な基準や、植栽基準等は一定の景観誘導が図れている。</p>
	課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋外広告物景観事前相談では、地区に応じた景観的な配慮を伝えているが、色彩や大きさなどには定量的な基準を設けておらず、拘束力も有していないため、実効性が担保できない。 ・ 屋外広告物許可申請数に対して景観事前相談件数は10%以下、対応実績に至っては2%以下に留まっている。 ・ 届出制度においては、現在設定している事前相談の時期では建築計画等が固まっていた、色彩や植栽計画以外について景観形成基準に沿った誘導を図ることが難しい。
	今後に向けて
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者が積極的に景観への配慮を促進する仕組みとして、景観賞の活用や、街並みの魅力を高める看板の表彰、また景観事前相談の結果から好事例を取りまとめた冊子づくりなど、事業者にとっても利益があり、景観の向上にも繋がる方法を検討する。 ・ 屋外広告物のガイドラインに基づく対応事例はまさに良い効果をもたらしているため、その対応数を増やすための方法を検討する。 ・ 届出制度に定める景観形成基準を計画に反映しやすくするため、事業の構想段階で、協議する仕組みを検討する。

行政が先導する景観まちづくり	
実践施策	
No. 3 地域景観資源の登録 (景観重要公共施設)	No. 10 他の施策・事業と連携した総合的な 景観づくりの推進
No. 9 公共事業による景観形成	No. 13 町田市景観審議会の設置・運用
実施内容	
<p>No. 9 公共事業による景観形成 ……詳細P.31</p> <p>○町田市公共事業景観形成指針(2013年策定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共事業を事業内容によって3つのフローに分類し、事業に応じた景観協議を行う。 ・Aフロー:配慮タイプ 事業担当課自らが指針を基に景観への配慮に努める。 ・Bフロー:助言タイプ 事業担当課と地区街づくり課で協議し、必要に応じて景観アドバイザーの助言を求めながら良好な景観の形成に努める。 ・Cフロー:協議タイプ 景観アドバイザー、事業担当課、地区街づくり課とで協議を行い、市や地域の景観の顔となる、新たな景観の創出に努める。 <p>No. 10 他の施策・事業と連携した総合的な景観づくりの推進 ……詳細P.34</p> <p>○南町田駅周辺地区拠点整備事業</p> <p>保全、舗装の素材・色等を検討し、その結果を「南町田考え方ノート」にまとめた。</p> <p>○原町田大通り憩いと賑わい空間を創造するプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外広告物を活用したエリアマネジメント支援事業の内容と方向性、東京都屋外広告条例に特例許可を取得するための内容と方向性を確認した。 <p>○鶴川駅周辺再整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民ワークショップ「鶴川駅を考える会」で出た市民の声をまとめ、まちづくりの方向性や空間づくりの考え方、一体的な景観形成における配慮事項を検討し、その結果を「鶴川駅デザインノート」にまとめた。 <p>No. 13 町田市景観審議会の設置・運用 ……詳細P.37</p> <p>○町田市景観審議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良好な景観形成に関する重要事項の調査審議のために付属機関として、年2回程度開催。 <p>開催回数 13回(通算23回～35回 2016年4月～22年3月)</p>	

調査事項

調査事項	実施内容
	<p>○町田市景観審議会専門部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の事項を調査、審議するために景観審議会会長が選任する委員で構成される会。 <p>開催回数 7回(通算24回～30回 2016年4月～20年3月)</p> <p>No. 3の実践施策について、活用の実績なし。</p>
	主な成果
	<p>「町田市公共事業景観形成指針」に基づく協議の全体サイクルが定着し、対象事業の重要度に応じて、景観審議会や景観アドバイザーの意見を聴きながら景観協議を行うことができた。</p>
	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・「町田市公共事業景観形成指針」では協議時期を構想段階からと記しているが、構想段階の時期が曖昧であること、庁内での情報共有、意識啓発が十分でないことなどから、協議時期が遅れてしまったり、協議ができない事例もあった。 ・景観協議の必要性や効果が十分に伝えられていないため、個々の事業がまちに与える影響を十分に反映できず、周辺環境を含めた一体的な計画には至っていない例もある。 	
今後に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・協議の時期を明確にし、協議内容について、舗装の色や街路樹、柵等、空間要素の個別協議だけではなく、まちづくりの観点から整備の目標や計画、設計方針についても協議し、まちづくりの波及効果に繋がるように協議の質の向上を図る。 ・公共事業については周囲に与える影響を踏まえ、市の事業のみならず、都や国への配慮を求める制度(景観重要公共施設)等の活用検討を行う。 	

景観まちづくりの周知啓発活動	
実践施策	
No. 7 景観社会実験の実施	No. 17 景観づくりセミナーやワークショップ等の実施
No. 15 街づくりフォーラムの充実	
No. 16 町田市公式ホームページの充実	No. 18 景観賞の創設
実施内容	
<p>No. 16 町田市公式ホームページの充実 ……詳細P.41</p> <p>○現在のページ構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町田市の景観に関する取り組みについて紹介 ・2018年度に「景観づくり」のページへアクセスしやすいように、ホームページを整理 <p>No. 17 景観づくりセミナーやワークショップ等の実施 ……詳細P.42</p> <p>○景観づくりセミナーやワークショップ等の開催</p> <p>「学んだ！探した！考えた！わたしたちの景観まちづくり」(2016年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観街づくりに取り組むための市民協働の考え方、まちの景観に大きな影響を与える屋外広告物についての講演や、「景観づくり市民サポーター」の景観への取り組みについての報告を行った。 <p>「つくっちゃおう！ぼくのわたしのお店屋さん」(参加者約50名)(2017年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民協働フェスティバル「まちカフェ」に来場した子どもたちに、良好な景観形成の普及活動の一環として、牛乳パックでお店を並べた街並みを作ってもらった。 <p>「マチ×ヨガ #町田で発見」(参加者16名)(2017年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活・活動の景観」をヨガを通して発信し、魅力的な景観を創出するため、ぼっぼ町田広場でヨガ講座を行った。 <p>「マチ×看板『お店の看板まち歩き』#町田で発見」(参加者19名)(2018年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外広告物に関する講演を行った後、ワークショップ参加者と中心市街地のまち歩きを行い、参加者と広告物の設置状況を確認した。 	

調査事項

調査事項	実施内容
	<p>「図書館景観特集」(2017年度、2020年度、2021年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に景観活動を知っていただくため、10月4日の都市景観の日に合わせて図書館展示を行った。 <p>「まちだ・環境の近未来」作品展示会の開催(2019年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の学生と連携し、「町田市 of 近未来のあるべき姿を考える」という課題で環境デザインの授業を行い、成果品であるデザイン模型を市庁舎に展示した。 <p>「波及効果を生むドボクデザインと景観アドバイザーの上手な活用」講演会開催(2019年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内の職員向けに「町田市公共事業景観指針」への理解を深めてもらうための講演会を開催した。 <p>○景観マチ×だより(2～5号発行)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に景観について紹介するため、市の景観づくりの取り組みについて刊行物を発行した。 <p>No. 7 No. 15 No. 18の実践施策について、実績なし。</p>
	主な成果
	<p>町田市HPの「景観づくり」のページアクセス数は、景観計画策定時の2009年12月には1,197,726件だったのに対し、2020年12月では2,427,614件とアクセス数増加を確認できた。</p> <p>周知啓発活動の方法として、様々なワークショップや展示等を企画、冊子の発行等を行い、幅広い年齢層の市民に景観について考える機会を多く創出することができた。</p>
	課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ過にあっては、集合形式や対面を前提とした周知啓発活動が開催出来ないため、周知が限定的になってしまう。 ・未来を担う若年層へのアプローチが少ない。

今後に向けて	
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSでの発信など、多様な世代への伝達方法や、時間を問わない周知啓発方法の検討を行う。 ・ 小学校などで、次世代を担う子どもたちに向けた景観まちづくりの紹介、啓発活動を行う。 ・ 景観賞については屋外広告物や看板など、テーマを設けて実施することや、審査員が評価する形式に限らず、一般市民が応募や投票に関わるなどのプロセスに参加していただくなど、有効な活用方法を検討する。 ・ 屋外広告物事前相談等の好事例を取りまとめ冊子にするなど、啓発活動に繋げる方法を検討する。

(2). 市民の意見調査

ア. 調査項目

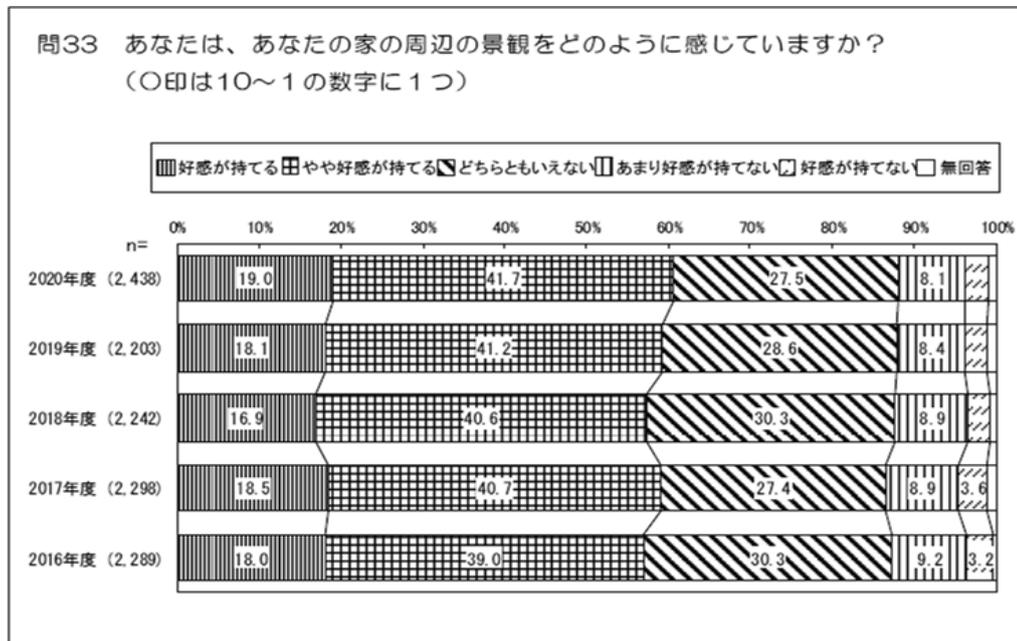
- ・ 市民意識調査や環境の現状や動向をまとめた報告書、上位計画策定・改正時に行った各種調査から特に景観に関わる3つの施策を調査対象とした。

施策名		調査資料	実施時期	内容
①	町田市市民意識調査	2020年度 町田市市民意識調査	毎年9月	町田市民を対象に、日常生活の中で感じていることや市政に対するご意見、ご要望を調査
②	町田市環境白書	エコ(環境)に関する 市民アンケート	毎年4月頃	町田市民を対象に、環境に関する町田市の現在の状況を評価するものとしてアンケートを実施
③	まちだ未来づくり ビジョン2040	子育て世代への インタビュー	2019年9月	「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定にあたり、子育て世代が抱える悩みや課題を捉えることを目的に、市内在住の子育て中の方を対象に、インタビュー
		タウンミーティング (地区別意見交換会)	2019年 7～10月	「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定にあたり、町内会・自治会や地区協議会などで活動されている市民を対象に、「住みたい・なりたいまちの姿」について意見交換を実施
		高校生との ワークショップ	2019年8月	「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定にあたり、町田の未来を考える若者グループ「町田創造プロジェクト(MSP)」のメンバーを対象に、「なりたいまち・未来の姿」についてワークショップを実施
		オンライン タウンミーティング	2019年8月	「まちだ未来づくりビジョン2040」の策定にあたり、町田の未来のために「できること」を検討したり、市民意見を収集することを目的に、オンライン通話システムを活用したワークショップを実施

①. 町田市市民意識調査

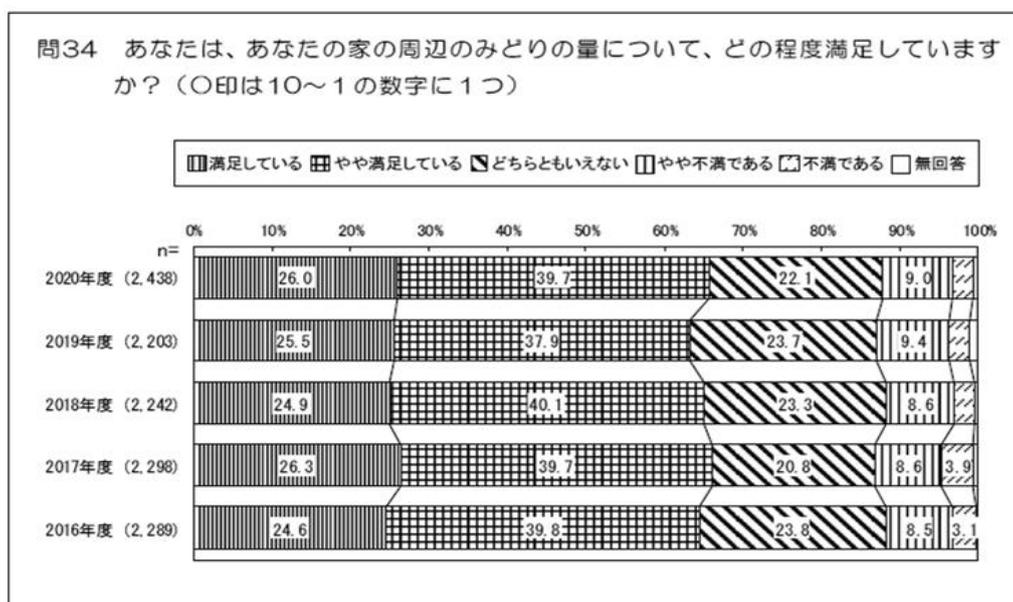
- ・町田市民を対象に、日常生活の中で感じていることや市政に対するご意見、ご要望を伺った結果から、特に景観に関わる項目であった2つの設問について抽出し調査を行った。

住まい周辺の景観に対する好感度



住まい周辺の景観に対する好感度について、過去5年にわたり市民の意見を確認したところ、「好感が持てる」「やや好感が持てる」の合計は2016年度57.0%、2017年度59.2%、2018年度57.5%、2019年度59.3%、2020年度60.7%となっており、僅かながらではあるが増加傾向である。

住まい周辺のみどりの量に対する満足度



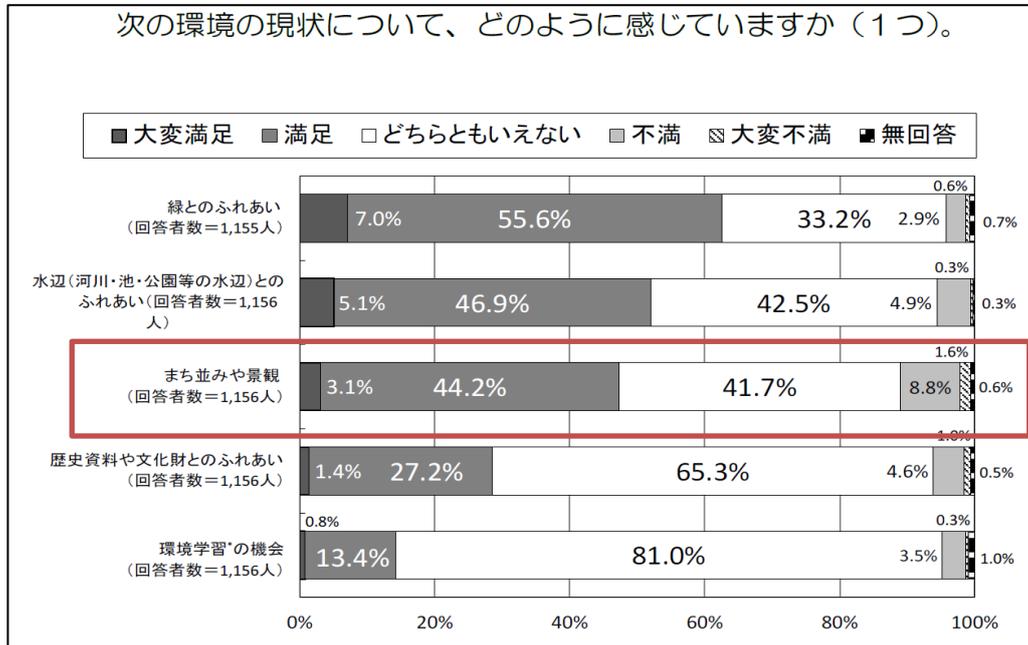
住まい周辺の緑の量に対する好感度について、過去5年にわたり市民の意見を確認したところ、「好感が持てる」「やや好感が持てる」の合計は2016年度64.4%、2017年度66.0%、2018年度65.0%、2019年度63.4%、2020年度65.7%となっており、平均で64.9%とほぼ横ばい状態である。

②. 町田市環境白書

- ・町田市民を対象に実施した環境に関するアンケート調査の結果から、特に景観に関わる項目であった2つの設問について抽出し調査を行った。

環境の満足度

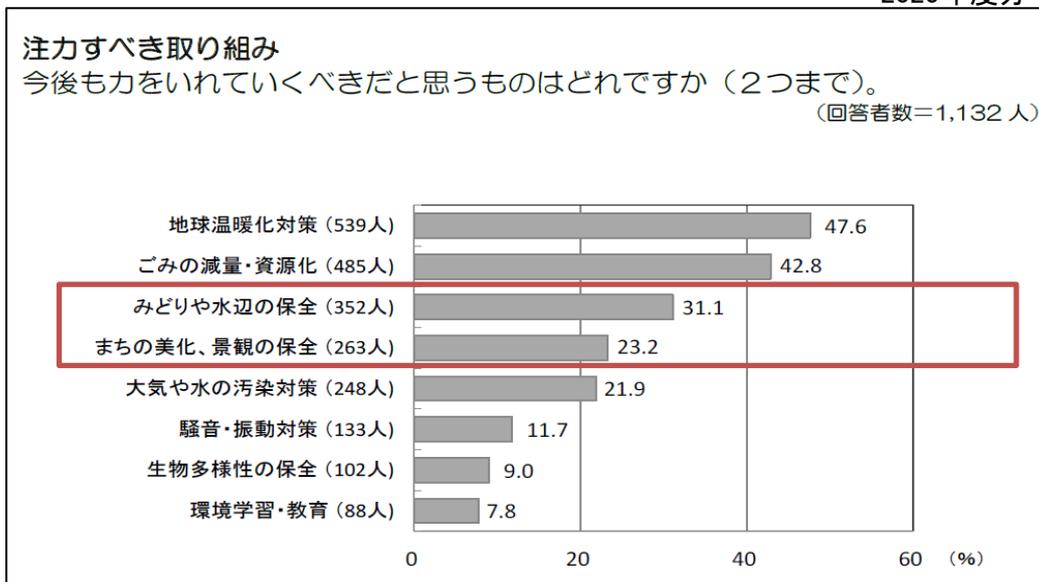
2020年度分



現状のまち並みや景観の満足度について、市民の意見を確認したところ、「大変満足」「満足」の合計は2020年度47.3%となっている。過去の結果は2016年度36.6%、2017年度37.5%、2018年度38.1%、2019年度40.7%となっており、増加傾向である。

今後注力すべき取組み

2020年度分



今後も力を入れていくべき町田市が実施している取組みとして、地球温暖化対策やごみの減量・資源化に次いで、「みどりや水辺の保全」「まちの美化、景観の保全」となっている。

③. まちだ未来づくりビジョン2040

・町田市民を対象に、「将来どのようなまちに住みたいか。」について行った各種アンケート調査の結果から、特に景観に関わる意見について抽出し、景観計画の基本目標毎に分類分けを行った。

現在のまちのイメージ

基本目標	アンケート	子育てインタビュー	タウンミーティング	高校生ワークショップ	オンラインミーティング
自然景観 〈起伏に富んだ地形、豊かな農や緑、河川や水辺空間など〉		他市と比べて ・緑が豊か ・坂道ばかりで大変	—	・田舎と都会の両方がある ・自然が多い ・坂が多い	・緑が残る風景にほっとできる
まち並み景観 〈住宅地や駅周辺のにぎわい、沿道の景観など〉		他市と比べて ・公園が近い ・歩道が広い ・静か	—	・公園が多い	・緑地の活用が進んでいない ・ごちゃごちゃしている
文化的・歴史的景観 〈地域の文化や歴史を物語る景観〉		—	—	—	—
生活・活動の景観 〈愛着と誇りを持てるような”町田の景観”〉		他市と比べて ・まちも(※)が便利 ・街中に子連れで行ける施設が少ない	・中高生が遊べる場所がない ・小学生が集う場が少ない	・地元愛が強い ・流行のものが多く ・治安が悪い	—

※小学生が放課後大人に見守られて過ごすことのできる、自由来所型の活動。

現在のまちのイメージについて、多くの市民が、市内の自然環境を、緑が豊かで自然が多く残されていると感じている。特に若い世代には、近くに多くの公園があると感じており、全体的なまちのイメージとして緑を基本とした肯定的な意見が多かった。また田舎と都会の両方があるといった町田市の特徴を表す意見が印象的である。

今後のあるべきまちのイメージ

基本目標	アンケート	子育てインタビュー	タウンミーティング	高校生ワークショップ	オンラインミーティング
自然景観 〈起伏に富んだ地形、豊かな農や緑、河川や水辺空間など〉		—	・自然と都会が共存できるまち ・自然に触れられる環境がある ・自然の中で遊べる場所がほしい	・自然にふれあいやすい環境 ・川とか池とかあるまち ・もっと自然を活かしたい	—
まち並み景観 〈住宅地や駅周辺のにぎわい、沿道の景観など〉		・公園を充実させてほしい ・ベビーカー専用の道路があるといい ・駅周辺にベンチを増やしてほしい	・出かけたくなるまち ・電柱を地中化し道を広げる ・団地をリニューアルして、若い世代にも魅力ある場所にしたい	・住宅地にもみどりがあるまち	・各地の個性が町田市の中に広がると魅力的 ・歩道が広くベビーカーでも歩きやすいまち ・駅付近の緑を増やす
文化的・歴史的景観 〈地域の文化や歴史を物語る景観〉		—	・地域の資源を活かす。 ・地域の誇りを子どもたちへ残したい	・お祭りを絶やすことなくもっと盛り上げたい	—
生活・活動の景観 〈愛着と誇りを持てるような”町田の景観”〉		・子どもと一緒に参加できるコンサートなどがあるといい ・父親講座のようなものがあるといいかも	・大人も子どもも居場所があるまち ・ステキな大人が見守ってくれるまち ・大人になって戻ってきたいまち ・3軒隣まで顔の見える付き合い	・親と子どもと一緒に遊べる環境 ・子どもの創造力を生かせる場所がほしい ・建物に絵を描いてみたい	・治安が良く、自然が多く、子育てしたいと思えるまち ・空き家の有効活用や市民農園の拡充をおこなう

今後のあるべきまちのイメージでは、自然や緑を活かした環境を求める意見や地域の個性や資源を活かしたいといった意見が多かった。また大人と子ども、それぞれの居場所や一緒に遊べる場所、子どもが活躍できる場を必要としているといった、家族の活動をイメージした意見も多かった。